

〔寄稿〕

武庫川溪谷の魅力と課題

伊藤益義*

1. はじめに

「阪神間の母なる川」武庫川はけったいな川である。上流部に高低差が少なく、中流の下で武庫川溪谷という特異の溪谷を持っている。

この溪谷の歴史、その貴重性、その楽しみ方などについて報告する。さらに溪谷に面する桜の園「亦楽山荘」について述べる。

2. 武庫川溪谷

武庫川溪谷は、上流は神戸市北区道場生野から宝塚市、西宮市にある武田尾を経て、西宮市と宝塚市の境界を流れ西宮市生瀬に至る全長約13kmの溪谷である。

武庫川の中で武庫川溪谷の位置は図1と図2のように武庫川全長約65kmの中で下流部にあり、他の河川と大いに異なる。

3. 武庫川の貴重な自然

武庫川溪谷は、その特異な歴史から貴重な自然が残っている。

地形

約100万年前に起こった六甲変動と同時期にこの地

域も隆起し、これに対抗して武庫川が穿刻し、流路がそのまま残る特異な先行河川が形成された（兵庫県レッドデータブック 2011 地形 B ランク）。溪谷の両岸の山塊の上部には標高300~350mの台地状の沖積層（大阪層群）があり、右岸にはよみうりカントリークラブ、左岸には宝塚クラシックゴルフ倶楽部（旧スポーツニッポンカントリー倶楽部）のゴルフ場がある。

地質

凝灰岩等を主体とする流紋岩類からなり、有馬層群と呼ばれる。これは1億年ほど前の白亜紀に火山噴出物が堆積したと考えられている（同データブック 2011 地質 C ランク）。

自然景観

V字谷の景観資源的価値と植生の自然価値の両面から評価されて同データブック 2011 自然景観 B ランクに位置づけられる。

植物群落

洪水が繰り返す環境で岩上植物群が息している（サツキ、アオヤギバナなど、同データブック 2010 植物群落 A ランク）。



図1 武庫川の縦断面⁴⁾

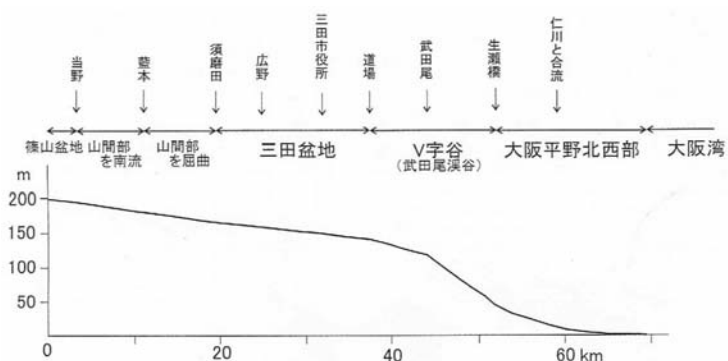


図2 武庫川の横断面⁴⁾

*エコグループ・武庫川

4. 武庫川溪谷の地質

武庫川溪谷の地質は大部分有馬層群と呼ばれ、六甲山を中心とする六甲花崗岩類とは有馬・高槻構造線を境に明確に区別される。

桜の園の中ほどから南、青葉台、リバーサイドの住宅地跡がある溪谷の出口までの両岸は灰色～黒灰色の玉瀨溶結凝灰岩である。これは流紋岩～石英安山岩質溶結凝灰岩を主体としており、9千万年前の火砕岩といわれている。この地質は碎石に適しており、各地に採石場がある（琴鳴山、惣川沿い、道場近く）。

桜の園入り口付近から僧川沿いには丹波層群の頁岩（けつがん）が分布している。この地層は古生層と呼ばれ古く1億5千万年位前に出来たものである。

また武田尾から上流道場付近までの河床を中心に玉瀨溶結凝灰岩より古い武田尾溶結凝灰岩が分布している。

また、武庫川溪谷下流部の両岸の上部には5千万年前に形成された神戸層群、さらにその上部には150万年前の大阪層群が見られる。

この地域の断層として知られものには、有馬－高槻構造線、十万辻断層、中山断層がある。

有馬－高槻構造線は北摂山地と六甲山地・武庫平野を隔てる構造線。六甲山地との境界は六甲断層と呼ばれる太多田川の断層谷をつくる断層で、南側の花崗岩が衝上している。

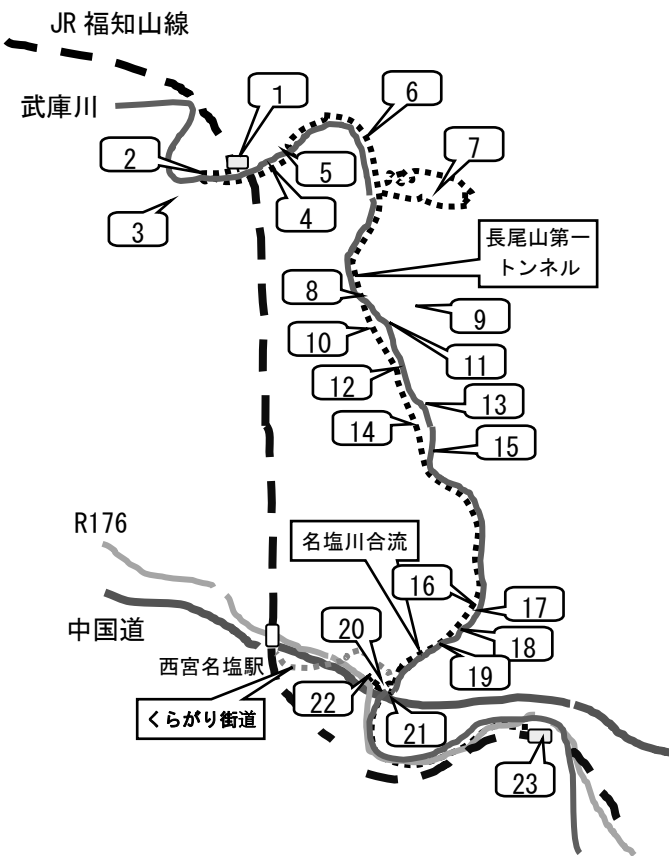


図3 行程図（地点番号は本文参照）

また十万辻断層は、十万辻、立合新田付近を通る左ずれの横ずれ断層である。

中山断層は十万辻断層にほぼ平行して、東は石切山付近から桜の園を通り武田尾付近に至る大断層である。この二つの断層にはさまれる地帯には、最下部の地層として丹波層群が見られる。

5. 武庫川溪谷ハイキング スタート

武庫川溪谷のハイキングは、武庫川溪谷の丁度中央になる JR 宝塚線武田尾駅から始める（図3）。ここから上流の道場に至る道は、岩場があったり武庫川等の増水時には冠水箇所があり、上級者同行以外はお勧めできない。武田尾から始めるのは、JR のダイヤの乱れのおそれがあるので交通の便がいい生瀬解散を解散場所としたためである。約 8.5km 通常約 3 時間の一般向きコース。懐中電灯必携、ハイキングできる服装で。

桜の見ごろは、宝塚市内のソメイヨシノの見ごろから約 2 週間後が武田尾のヤマザクラの見ごろである。また紅葉は 11 月下旬が最盛期である。

JR 武田尾駅 (1)

JR 武田尾駅はホームの大部分がトンネル(武田尾第一トンネル)の中にあり、一部は第二武庫川橋梁に架かる(写真1)。武庫川橋梁の上にある、宝塚駅から三田に向かって3番目の駅で、普通しか止まらない無人駅である。宝塚駅から9分190円、昼間1時間4本あり。

駅の改札の目の前を武庫川が流れる。1981年(昭和56)8月には複線電化が完成し、武庫川溪谷を走っていた福知山線はトンネルを直線で抜ける路線に付け替えられた。旧路線は廃線跡となり新駅が現在地に開設された。改札口下の舗装道路が廃線跡である。

馳渡山(かけわりやま)

武田尾駅の裏山は駆渡山、標高289.5m。武庫川溪谷の対岸にある天狗岩との間を天狗が飛び渡ったと考えられれば楽しい。三等三角点あり。

旧国鉄福知山線廃線跡

1897年(明治30)、私設阪鶴鉄道が尼崎・池田間の私設攝津鉄道を買収し、池田駅(現在の川西池田駅)



写真1 JR 武田尾駅

から宝塚まで開通し、1898年（明治31）有馬口（1899年に生瀬と改称）、1899年（明治32）年福知山まで開通した（福知山から舞鶴までは私設京都鉄道（後の山陰線））。この鉄道は日露戦争（1904～5年）では軍隊や軍事物資の輸送に重要な役割を果たした。

この工事は重機のない明治の中頃で難工事であった。西谷地区での殉難者は27名（家族及び朝鮮の方2名を含む）で、この方々の慰霊と感謝をこめて1979年（昭和54）、西谷青年団によって廃線跡に近い立合新田墓地内に福知山線敷設工事殉職者の碑が建立された。

その後1906年（明治39）国有鉄道福知山線になり、1987年（昭和62）国鉄民営化によりJR西日本宝塚線となった。

この廃線跡は市民に利用されるハイキングコースとなったが、3番目の長尾山第三トンネルの手前からは、未整備、トンネル内の照明がない、落石・倒木の発生のおそれがあるなどから、JRは正式に立ち入りを認めていない。事故の責任は負わない旨の看板を掲示して1990（平成2）年から立ち入りを黙認している。

宝塚西谷切畑字玉瀬

武田尾駅は宝塚市西谷の切畑玉瀬にある。西谷は北部長尾山山系の北側に位置し、宝塚市の2/3の面積を占め、豊かな自然が残る。猪名川と武庫川（支流）の上流に広がる谷合いの村川辺郡西谷、中谷（現猪名川町）、東谷（現川西市）の一部である。1955年（昭和30）4月西谷村は宝塚市と合併した。玉瀬の由来は、川下川上流区域溪流に美しい石を産し「玉石の瀬」と呼ばれる



写真2 武田尾温泉



写真3 神戸市水道水管橋

ことに由来する。この石はどこで割っても瓢箪の形が残ることから瓢箪石といわれる。

武田尾橋 (2)

改札を出て左上流へ行けば武田尾温泉がある。川沿いの廃線跡に続くトンネルに入り途中で外へ出ると、赤いつり橋 武田尾橋がある。2004年（平成16）10月の台風23号の出水で流失したが、2006年（平成18）に高い位置に移され復旧された。

武田尾温泉 (3)

武田尾温泉は、1641年（寛永18）名塩の人、武田尾直蔵が発見したといわれ、硫化水素を含む単純泉で西宮唯一の泉郷である（写真2）。JR福知山線複線化による路線変更で武田尾駅がトンネル内に入ったため、JR中心の風景は変わったが、一方の主役武庫川の流れには激しく岩をかむ変化があり、兩岸に迫る溪谷美が四季折々のうつろいをみせる中で料理もこの地ならではのものが楽しめ、浴客は遠く信州の山峡に遊ぶ旅情が楽しめる仙境である。

武田尾温泉の泉源は対岸の谷の上流にあり、「銀瀧水（ぎんろうすい）」と呼ばれている。

武田尾には早くから12景勝地が数えられている。その中でも「羽化登仙の趣ある釣橋、巖鬼作天に昇る形状の天狗岩、高さ一丈六尺横三丈もある富士山形の富岩、天然の奇岩高座岩、上の瀑下の瀑二つを合せる未曾有瀑」などは、上流玉瀬の瓢箪石（前出）と共に文人に愛好され詩に詠まれ、書に載せられて広く世に知られてきた（川端道春著「宝塚風土記」より）。

現在、紅葉館別庭「あざれ」（宝塚市）、マルキ旅館、河鹿荘、元湯旅館（以上西宮市）の4軒の旅館が営業している。日帰り入湯も可能である。紅葉館には無料の足湯がある。

また民間の桜博士笹部新太郎氏の定宿「橋本楼」は、1939年（昭和14）7月の大水害で流失して今はマルキ旅館の駐車場になっている。

ふるさと桜づつみ回廊・さくらの名所“たけだお”

兵庫県が県民に親しまれる川づくりに向けて、水と緑の空間を生かし、うるおいとやすらぎのある水辺空間を創造することを目的として、ふるさと桜づつみ回廊事業、さくらの名所づくりモデル事業を実施し、2001年（平成13）春に竣工した。ふるさと桜づつみ回廊は、瀬戸内海から日本海まで延長約172kmの川沿い（武庫川～篠山川～加古川上流～円山川）を桜でつないでいる。

さくらの名所“たけだお”は、桜の園への玄関口。春は桜や新緑、秋は紅葉というように四季の変化が楽しめるよう、自生種・固有種のサクラ（ヤマザクラ、エドヒガン、カスミザクラ等）やイロハモミジ、ヤマブキ等が植栽してある。

桜の園へ通じるJR廃線跡にサクラが植えられ、トンネルを抜けると満開の桜に目を奪われるような演出がされている。ハイキングの休憩場所として市民が利用



写真4 温泉橋

できるよう、エントランス広場、休憩広場、桜ふれあい広場、親水広場、展望広場が設けられている。

神戸市水道水管橋 (4)

武田尾橋から右岸に沿って下る。鉄道橋の下流で神戸市の水管橋をくぐる (写真3)。この水管橋は、上流の羽束川にある神戸市千苺貯水池から西宮市にある上ヶ原浄水場に送水している。1919年(大正8)完成、橋脚は近代土木遺産の一つ。2004年(平成16)の23号台風の洪水はこの水管橋の高さまで達した。

温泉橋 (5)

更に下ると温泉橋に達する (写真4)。温泉橋の対岸には旧武田尾駅の改札口があり「歓迎」のアーチが残されている。周辺に住宅と商店があり、2004年(平成



写真5 廃線跡ハイキング道入口



写真6 親水広場

16) 23号台風で床上浸水の被害を受けた。武田尾停車場跡は現在道路と駐車場になっている。旧駅は武庫川に沿って1島2線式で、他に貨物用の引き込み線が1本あった。

廃線跡ハイキング道入口

バス通りから別れ階段を登ると川に架かる橋梁に出る。この川は僧川で、廃線跡の始まりである (写真5)。すぐにエントランス広場があり、バイオトイレと給水栓がある。ここから生瀬までトイレも給水栓もない。ここから3番目のトンネルの手前までは宝塚市の管理で市民に開放されており、オオシマザクラが植栽されている。新緑の頃は桜餅の葉っぱの香りでいっぱいになる。このあたりから桜の園までの間は6月初めにはホテルが乱舞し、カジカガエルも美しい声を響かせる。

廃線跡には枕木が残り、枕木の間にはバラストが残っており、足元には気をつけよう。暫く進むと小さな谷川を越えたところに休憩広場がある。

トンネルまたトンネル (6)

更に進むと1番目のトンネルが見えてくる。長尾山第三トンネルである。長さ91m、短い途中に緩いカーブがあるので要注意。

トンネルを抜けると右側の高台に桜ふれあい広場がある。谷川を渡ると向こうに次のトンネルが見える。長尾山第二トンネル(147m)である。このトンネルは少し長い直線のため出口が見え、気持ちが良い。トンネルの中から見る秋の紅葉は絵になる。

親水広場

2番目のトンネルを出ると谷川を渡る。この谷は通称「桜谷」と呼ばれている。桜の園を縦断しているからだろう。

渡って右側は「親水広場」(写真6)。廃線跡では最大の広場で武庫川の水辺に下りることができる。廃線跡唯一の親水空間である。

親水広場と廃線跡との空間には桜の丘があり、笹部新太郎氏ゆかりの桜が植栽されている。荘川桜の子孫2本が移植され、笹部氏が激賞した和歌山県白浜の権現平桜を西宮市が復活した西宮権現平桜2本、更に下の広場には笹部邸の庭にあったササバザクラの子孫も植



写真7 桜の園「亦楽山荘」



写真 8 展望広場



写真 9 旧第二武庫川橋梁

栽されている。

また、桜の丘にあるイロハザクラの新緑、紅葉は見事である。

桜の園「亦楽山荘(えきらくさんそう)」(7)

親水広場の山側は「桜の園」の入り口である。階段を登り谷川へ下りたところに案内板がある。

ここは民間の桜研究家笹部新太郎氏が 1912 年(明治 45)に兄から譲り受けて、桜の品種改良や接ぎ木などの研究に使用された演習林で、面積約 40 ヘクタール。当時は全国から集められた山桜や里桜が 30 種、5 千本以上も植えられていた(写真 7)。

笹部氏は、この演習林に、中国の詩人蘇東坡の漢詩「於潜令勺同年野翁亭」の一節から「亦楽山荘(えきらくさんそう)」と名付けられたが、現在では「桜の園」として知られている。

笹部新太郎氏(1887~1978)は大阪の堂島に生まれ、東京帝国大学(現東京大学法学部)在学中から桜の研究を始め、ソメイザクラは本来の桜ではないとして日本の桜である山桜、里桜の育成にその生涯を捧げた。

大阪造幣局の通り抜けの桜、西宮夙川の桜、甲山周辺の桜などの管理指導など、多くの桜に関わる事業を手がけたが、中でも岐阜県荘川村(現高山市)で、電源開発会社の御母衣ダムに水没する樹齢 400 年超のアズマヒガン 2 本の移植に成功した。水上勉氏の小説「櫻守」に登場する「竹部庸太郎」は笹部氏がモデルであ

る。

また笹部氏は桜に関する書画や美術工芸品、書物などを数多く収集されており、それらの収集品は西宮市に寄贈され、現在公益財団法人白鹿記念酒造博物館付設桜資料室に所蔵されている。

桜の園「亦楽山荘」は笹部新太郎氏の没後、一時有志の方々が手入れされていたが、長らく放置され荒れ放題の状態であった。

その後、ご遺族からのご寄付と宝塚市の購入により市有林となり 1999 年(平成 11)3 月兵庫県里山林整備事業完了により、同年 4 月 17 日宝塚市の里山公園としてオープンし、市民に無料開放された。

この時、園内には笹部氏が植栽された日本古来のヤマザクラを中心にカスミザクラ、エドヒガンと里桜約 1 千本が残っていた。

このオープン行事に合わせ、それまで 2 年にわたって行われた市民による植樹会参加者を中心に、「桜の園」を愛し、自然に親しみながら里山整備作業・管理活動をし、会員の親睦・健康維持を目的とする市民の「緑の応援団」ボランティアグループとして「櫻守の会」が設立され現在に至る。

園内には桜のほか紅葉が多く植栽されており、秋の紅葉は見事である。

多くの散策路が設けられ「さくらの道」、「もみじの道」、「遠見の道」、「滝見の道」などが整備されている。

展望広場

更に川を下ると廃線跡に大きな自然石が並べられベンチとなっている(写真 8)。ここから振り返って見えるのは桜の園の全景である。桜の季節には桜が盛り上がって見える。圧巻である。トンネルの入り口から前方の武庫川を見ると水管橋が見える。神戸市水道局千苺水源地からの 2 番目の水管橋である。

このトンネルの入り口までは宝塚市が JR から借り受け管理し一般に開放されているが、JR は看板(図 4)を置き、ここから下流どん尻川橋梁の下流側までにつき危険性を訴え、自己責任を強調している。2004 年(平成 16)年 10 月の台風 23 号の出水で、ここから次のトンネル(長尾山第一トンネル)の間は、武庫川の洪水が廃線上を流れ枕木やバラストを流した。特にトンネル内は水流が強く、大量のバラストと枕木を下流へ流出させた。長さ 307m のトンネル内の歩行は注意が必要である。

洪水直後はトンネル出口に大量の枕木が積み重なり、洪水のすさまじさを見せ付けてくれた。今はハイカーの協力で枕木も整理されて歩きやすくなっている。

旧第二武庫川橋梁(8)

長尾山第一トンネルを抜けると赤い鉄橋になる。第二武庫川橋梁(全長 69m)である(写真 9)。武庫川渓谷では武田尾から下流唯一の橋梁である。歩道は橋梁上流側に付けられたもと点検歩道である。線路部分は立ち入りできない。狭い歩道の下は武庫川が岩を噛んで

告

本地は、当社の私有地で昭和 61 年 8 月に廃線した旧線跡地であり運行の用に供さずハイキングコースではありません。

また、鉄道施設としての使命を終えたため、その後、整備がなされておらず、橋梁等の施設は老朽化しており、途中のトンネルもでは証明がなく足元が見えない場所もあります。落石・倒木等の可能性もあり通行等には大変危険です。よって、関係者以外の立入りや立て看板等の設置等は一切認めておりません。

万一、事故、その他が発生した場合においてはその責は負いかねますので予めご了承ください。

西日本旅客鉄道株式会社

図 4 JR の看板

流れており壮観である。

百畳岩・天狗岩・仙人岩 (9)

橋梁の上から見る下流は兩岸に岸壁がそそり立ち武庫川随一の V 字谷を見せる。右岸の河道には百畳岩、左岸には岸壁上に天狗岩がある (写真 10)。

その昔、折々の武庫川のなりわいを見極めるため、飛来する天狗の座として用いられたという。見定めた天狗は、自然の采配を天に祈り、川の繁栄を願ったところであると、伝承されている。なお隣にあった仙人岩は 1995 年 (平成 7) の阪神淡路大震災で川に崩落した。

溝瀧尾トンネル (10)

鉄橋を渡るとすぐトンネルに入る。溝瀧尾トンネルである (全長 149m)。

溝瀧 (11)

溝瀧尾トンネルを出ると V 字谷が続く、渓谷美を見せる (写真 11)。轟音とともに 2 段になった滝が見える。溝瀧である。

古文書に「巖両方から差し出て川は狭く流るる故、溝瀧と言えり」とある。1775 年 (安永 4) 頃、高さ約 14m、男滝と女滝の二つからなり、鯉・鮎などの昇る姿も多く、里人これをすくい、有馬へ運び売られたという。

その当時播州滝野 (現加東市) 鬮龍灘の鮎すくいとなり、名風物であったと伝えられている。またの名を「清瀧」ともいう。

天井谷川 (12)

溝瀧のすぐ下流の廃線跡の上に橋がある。天井谷である。橋の上を谷川が流れている。鉄橋付近からここまでは岩の多い川筋だが、ここから下流は瀬、淵が繰り返して連続して川の姿を見せてくれる。

重次郎ヶ淵 (十次郎ヶ淵, 別名 鯉ヶ淵) (13)

北山第 2 トンネルの入り口から下流を見ると淵がある。重次郎ヶ淵である。

1761 年 (宝暦 11) 名塩村教行寺本堂落成にかかわる

材木が武庫川を流して運ばれていたという。ある時一本の大木が瀬に引っかかり淵に沈んだ。これを見た村民重次郎が飛び込み、これを浮かび上がらせたが自らは川に沈んだまま不帰の人となった。人々はその名を後世に淵の名として残した。

北山第二トンネル (14)

次のトンネルは北山第二トンネルである。延長 407m、このコース最大のトンネルである。中は S 字にカーブし、トンネル内の一部の壁に枕木が立てかけられており歩くのに注意を要する。

十国の瀬 十国の滝 (空水の滝) (15)

北山第二トンネルを出て振り返れば十国の瀬である。長い早瀬が続いている。

この対岸の山の中腹に十国の滝がある (写真 12)。雨の後でしか見られない幻の滝で「空水の滝」と呼ばれている。

北山第二トンネルと北山第一トンネルの間は岩場が少なく淵と瀬が交互に出現する。上流から清水ヶ淵、長瀨淵、オリトの長瀬、キンヌキ淵と連なる。

北山第一トンネル (16)

北山第一トンネルはこのコース最後のトンネルである。全長 318m、枕木も撤去されて歩きやすくなっている。

阪鶴鉄道開業時はこのトンネルはなく川側にあつ



写真 10 百畳岩・落下した仙人岩



写真 11 V字谷と溝瀧



写真 12 十国の滝（空水の滝）

たが、落石が多く後にトンネルが掘削されたものである。

人面岩

北山第二トンネルの出口の対岸に「人面岩」と呼ばれる岸壁がある。岩の見方によって人の顔が見えたものと思われるが現在は常緑植物で覆われてしまっている。

武庫川ダム(元計画) (17)

更に下流部の対岸には赤錆の鉄柱が数個見えるが、これはかつて兵庫県が計画した仮称武庫川ダムのボーリング調査の跡である。右岸側にもある。

このダムは当初多目的ダムとして計画されていたが、その後洪水調節を目的とするダムになっていた(図5)。

この計画が発表されるやこの渓谷の自然環境そして貴重植物が失われると住民の反対運動が起きた。

河川法の改正に伴い、兵庫県は総合治水対策を含めて地元住民の意見を聞きながら河川整備基本方針を策定することになり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した。その結果、2010年(平成22)10月、ダムは検討に時間がかかることから、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

形式：重力式コンクリートダム

堤高：73m(標高120m)

総貯水容量：1,125万m³

高座岩 (18)

有馬郡誌によれば「上面78間、高さ45間ほぼ方形をなせる大岩石にしておよそ13,824貫、ひとり傑然河中に突出し天然の一奇岩なり。……早魃ならば、雨乞いを執行する場所たり。……その儀式は動物の生き血をこの岩に塗るにあり。しからば天、その汚れを厭い、洗い去らんが為に雨を降らすという。その血は名塩ならば純黒色の犬の血を塗り、武庫、川辺両郡は純白色の馬の血を塗るを例とす。」

またこの岩の下は近江の瀬田の唐橋と同様竜宮に通じていて、乙姫さまがよく遊びにこられていた。それで血で汚されると乙姫さまが怒り、大雨を降らせてこれを洗い流した、という(写真13)。

かつては、この岩の下にも水がもぐり、まるで竜宮へ吸い込まれるようだったという。すぐ上流にあった数個の衝立岩は水勢のため倒壊してしまった。

見張り岩

どん尻川橋梁の手前に鉄道用見張り岩がある。

どん尻川

どん尻川には上流に西宮市の上水用ダムがある。

虎ヶ瀬 (19)

どん尻川合流部下流にある瀬は「虎ヶ瀬」といわれ、虎の子が泳いでいる風情である。

名塩川

名塩川は、赤坂峠に源を発し、名塩の集落を抜けて流れている。武庫川合流点は名塩川出合淵と呼ばれる淵である。

リバーサイド住宅地跡 (20)

名塩川合流部下流右岸にリバーサイド住宅地があったが、2004年(平成16)23号台風の洪水により住宅84戸が床上浸水の大きな被害を受けた。県の洪水対策により全戸移転が完了した。

西宮市水管橋

リバーサイド住宅地跡から対岸に渡る西宮市水管橋がある。2004年(平成16)の23号台風の洪水で流されたが、その後嵩上げされて復旧された。

青壁岩(あおべつとう) (21)

武庫川渓谷の最下流にある壁岩(べつとうと呼ぶ)で、

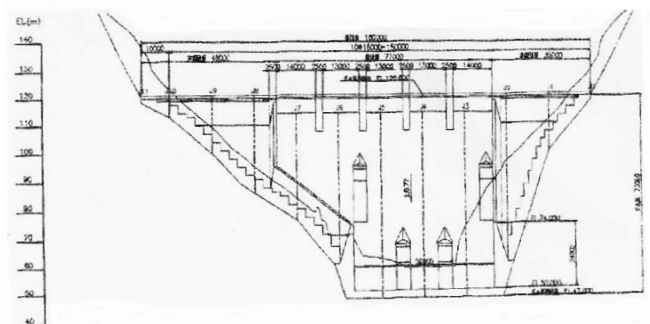


図5 武庫川ダム計画図



写真 13 高座岩

大きく湾曲する武庫川の角にある。

漆ヶ淵 (21)

中国自動車道の下あたりは大きな淵があり渦を巻いている (写真 14)。この淵を漆が淵という。昔から水死者が多かったが、これは淵の崖に生えている漆の主のたたりだといわれていた。

また、この渦はこの淵に住んでいる河童の仕業ともいわれ、きゅうりの好きな河童はお昼にきゅうりを食べた子どもを狙ったという。

殿さん道

三田の殿さんが参勤交代などで、小浜を通過して伏見街道へ出るのに、当時生瀬の浄橋寺の坊さんの方が殿さんよりも位が高かったので、いちいち挨拶に行かなければならない。そこで殿さんは生瀬を通らないように、名塩道(青野道)の木之元から直接対岸にわたり小浜へ出たという。そこでこの道を殿さん道というようになった。

木之元(このもと)地藏尊 (22)

聖徳太子が一本から 3 体の地藏尊を作られたという日本三体地藏(近江国木之本、紀伊の木の本)の一つ。琴鳴山木元寺(西山浄土宗)は、天正年間(16 世紀後半)の秀吉の三木城攻め兵火で寺が焼失したが、ご本尊は残った。火伏地藏と呼ばれる。また赤松満政一族憤死の場所でもある。嘉吉の乱(1441)のあと山名持豊(後の山名宗全)に追われ、この地で自害したという。境内には赤松氏の墓石と称する一石五輪塔のほか、十三重塔が残されている。

「木元の火伏地藏」(民話): 昔、この地に川辺の音次という若い百姓がおった。ある日、家に赤ん坊を残して、妻と裏山へ薪を取りに行った。ふと我が家の方を見ると、煙が立ちのぼっていた。夫婦は山をかけおり家へとびこんだ。すると、日頃信心するここのお地藏さんが、激しい火の中、衣の袖で赤ん坊にふりかかる炎を懸命に払っておられた。おかげで赤ん坊はやけどひとつせず助けられたが、反対にお地藏さんはやけどを負われた。それが今も地藏尊の左の頬と、左の衣に残っている傷跡だとされている。



写真 14 漆ヶ淵

こうしたことから「火伏地藏」とも呼ばれ、かつては非常に信仰された。また、癩のおさえにも霊験があるというので、各地からの参詣も多かった。

太多田川

木之元から国道 176 号線の狭い歩道をとおり太多田川合流点にある太多田橋に至る。太多田川は上流に蓬萊峡があり、花崗岩質の土砂を運び出している。

六甲断層・有馬一高槻構造線

太多田川辺りに西は六甲断層、東は有馬一高槻構造線が走り、これを境にして南側は六甲花崗岩、北側は有馬層群の流紋岩地帯となる。太多田川の石は六甲山、蓬萊峡からの石で白味を帯び、武庫川の本流の石は黒味を帯びるのがよくわかる。

有馬道・丹波道

生瀬は古い宿場町であり、1606 年(慶長 11)の記録では、有馬と小浜(宝塚市)をつなぐ有馬道・丹波道(金仙寺道・名塩道)の宿駅であった。

有馬道は今の太多田橋で左に折れ(道標が残る)七曲りの難所を越えて有馬(湯山)へ入った。名塩道は武庫川の川筋や山越えの道だった。

米が淵(別名 銭が淵)

太多田橋の近くにあるのが米が淵である。江戸時代丹波や三田奥の百姓が大阪で売る米を馬の背に乗せてここまで来て、一文銭を投げ入れ表が出れば米の値が上がっており、裏が出れば下がっているとして、米の相場を占ったところという。

琴鳴山

太多田川の手前に琴鳴山がある。今は採石されていて、形が変わってしまっているが、悲しいお話が伝わっている。

平安時代、京都に左大臣萬里小路盛通公に通磨という若者があり、美しい琴の名手の朝芽と愛し合うようになった。

ところが二人の身分が余りにも違いすぎるため、その仲が許されず、二人は安住の地を求め手に手を取って京都から有馬まで逃げてきた。

楽しい日々を送るうちに、可愛い赤子も生まれた。しかしそれからまもなく通磨は病で倒れ、最愛の妻と子を残して死んでしまった。

あとに残された朝芽は、幼いとし児を抱き涙の日々を送っていたが、京都へ帰って夫の忘れ形見の幼子を立派に育てようと決心した。

ところが、有馬をたち有馬街道を京都に向かい、蓬萊峡を過ぎた辺りで、赤子の様子が急におかしくなり、介抱するまもなく息を引き取ってしまった。

全ての希望を失った朝芽は、京都にいる父や母に先立つ不幸をわび、亡き夫の遺骨と子供のなきがらを胸に抱くと、自らの命を絶った。

それから、この辺りを通る旅人の耳には、悲しげな琴の音と、母を慕ってなく赤子の声が聞こえるようになった。この山は「琴鳴山」(太多田川の北岸)、向か

いの谷は「赤子谷」と呼ばれるようになった。

(「西宮の語り部」, 「西宮ふるさと民話」より)

生瀬宿と JR 生瀬駅 (23)

国道 176 号線を下流に移動し、西宝橋南詰の交差点で右折し JR のガード下をくぐると生瀬駅である(写真 15)。生瀬は旧宿場町で約 600m の間、妻入りの家が並んでいたが、阪神淡路大震災で大きな被害を受け、現在は数軒が残るのみ。生瀬駅は阪鶴鉄道の有馬口駅。昔は有馬温泉への入口であった。1911 年(明治 44)生瀬の駅弁屋淡路屋が武庫川の鮎を使った鮎寿司を売り出した。

武庫川の鮎

1949 年(昭和 24)頃までは武庫川には天然鮎が群れをなして昇ってきた。小滝、大滝を鮎の群れが飛び交う姿を眺め、金銀糸を流したようだと呼んだ人もいた。

武庫川溪谷で育った鮎は有名だった。その鮎は福知山線生瀬駅で名物の駅弁鮎寿司として売られていた。神戸駅の駅弁「淡路屋」はここが本拠だった。鮎は木之元から上流で取れた鮎ばかりを使い、間に合わないときは四国吉野川上流のものを使っていた。

この駅弁は 1911 年(明治 44)創業、1944 年(昭和 19)に食糧難から廃業になってしまった。現在も鮎・鯉・鮒が放流されている。

武庫川の石ころ

万葉集巻七に「武庫河の水脈を早みか赤駒の足掻く激に濡れにけるかも」と詠まれた歌がある。武庫川の流れが早いことを言っている。

武田尾の溪谷の生瀬口から一気に噴流するため急流である。川底は砂と石ばかりである。「住吉大社神代記」(732)には面白い説話がのっている。

むかし、川辺に山直阿我奈賀という人が住んでいた。それでその川を阿我奈賀川と呼んでいた。今の為奈川(猪名川)はこの「あがのが川」が訛って「いな川」と呼ぶようになった。為奈川の上流は山が深く、よい木の育つところなので、難波の住吉に住む大神は自分の宮城を作るのにこの木を使うことにし、木を切って筏を組み川を下り海に出て住吉に運んでいた。この時、為奈川に住んでいた女神は住吉の男神を見て好きになり、妻になることを望んだ。ところが恋敵が現れた。



写真 15 JR 生瀬駅

為奈川の西を流れている武庫川に住む女神である。住吉大神を熱愛した為奈川の女神はついに嫉妬に狂い、自分のまわりにある石を手当たり次第に武庫川の女神に向かって投げつけ、その上、武庫川に生えている芹草を一本残らず引き抜いてしまった。それからというもの、為奈川には大石がなく芹草がいっぱい生えているのにひきかえ、武庫川には石ころだらけで草も生えぬ川となった。今この川は下流で合流し一つになって流れている、と。

武庫川漁業協同組合

三田市広野から下流の西宮市・尼崎市の国道 171 号線甲武橋までの間の本川と、有野川、長尾川、船坂川、名塩川、太多田川に漁業権を持つ内水面漁業協同組合がある。前身は 1902 年(明治 35)発足の塩瀬村漁業協同組合で、戦後の漁業法の改正で 1950 年(昭和 25)改組創立された。当初は名塩、木之元、生瀬の 3 支部だったが、その後、三田、有野、小浜、川面、良元地区が合流して現在に至っている。

毎年、宝塚大橋、生瀬橋、リバーサイド住宅地跡付近から彦根天の川の鮎合計 4~500 尾を試験放流している。また鯉も放流されている。この地区での漁獲には入川料が必要である。

6. 武庫川溪谷の現在の課題

このように見てきた武庫川溪谷にもいろいろの課題がある。以下に列挙する。

清流を取り戻す

武庫川溪谷を歩いて川面を見ると岩陰や淀みに沢山の泡が浮かんでいる。決して清流とはいえない。溪谷を抜けて生瀬橋に至ると溪谷の浄化作用で泡がほとんど見えなくなるが、決して好ましいものとはいえない。溪谷の上流に入ったところに兵庫県広域下水道武庫川上流浄化センターがあり、この影響も大きいと思われる。

流量を取り戻す

武庫川溪谷の水量は少なく、せっきくの溪谷美を台無しにしている。渇水期には河川内の石が白化現象を起し平野部の石まで白化する。珪藻の死骸といわれているが、水量が増えることで減少させることができる。上流の 5 つの利水ダムも、農地の減少、人口減少や節水の徹底から使用水量が減少しているため、貯水量を引き下げて流量を増やしてほしい。

武庫川溪谷の自然を守る

武庫川溪谷は豊かな自然、貴重な自然がいっぱいである。これを後世に残すために、千苜水源地、鎌倉峽、百丈岩を含めて県立自然公園に指定してほしい。他の自然公園に比べても未指定なのが理解できない。ダム計画があったり、JR 用地があったりしたのが原因かもしれないが、それ以上に溪谷の保全が大切である。

7. おわりに

ご紹介した武庫川渓谷では、私たちエコグループ・武庫川が、2007年（平成19）4月から武庫川流域を皆さんに知ってもらおうとして「武庫川エコハイク」を毎月実施しているが、この中で毎年4月の桜、11月の紅葉の時期に武庫川渓谷をエコハイクしている。

今回ご紹介したコースは少人数向きです。私たちのエコハイクは、大勢の方が参加されますので西宮名塩駅から武田尾のコースを使っています。ぜひご参加ください。

<http://homepage3.nifty.com/ecomukogawa/>

四季を通じて武庫川渓谷を歩いていただき、武庫川渓谷の良さを五感で感じ取っていただきたいと思っております。

参考文献

- 1) 国土地理院（2000）2万5千分の1地形図「武田尾」
同（2005）2万5千分の1地形図「宝塚」
- 2) エコグループ・武庫川（2004）武庫川エコハイク母なる川武庫川を知ろう 武庫川渓谷，39pp. .
- 3) 田村博美+武庫川つくりと連携を進める会編著（2011）武庫川・川まちガイドブック 武庫川・まちなみ探訪，128pp.，三帆舎，宝塚.
- 4) 小林文夫（2004）武庫川流域の地質と自然「武庫川上流域の人と自然」（小林文夫編），pp. 2-9，兵庫県立人と自然の博物館，三田.
- 5) 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課編（2010）兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2010（植物・植物群落），206pp.，ひょうご環境創造協会，神戸.
- 6) 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課編（2011）兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2011（地形・地質・自然景観・生態系），94pp.，ひょうご環境創造協会，神戸.
- 7) 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課編（2011）兵庫県版レッドデータブック 2012（昆虫類），72pp.，ひょうご環境創造協会，神戸.
- 8) 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課編（2013）兵庫県版レッドデータブック 2013（鳥類），128pp.，ひょうご環境創造協会，神戸.
- 9) 兵庫県県土整備部（2010）新規ダムに係る武庫川環境影響調査状況について，8pp. .
- 10) 三田市（1983）武庫川上流史，184pp. .
- 11) 宝塚市史編集専門委員（1975）宝塚市史第1巻，532pp.，宝塚市.
- 12) 宝塚市史編集専門委員（1977）宝塚市史第4巻，491pp.，宝塚市.
- 13) 宝塚市（2005）宝塚市大事典，624pp. .
- 14) 川端道春（1977）宝塚の風土記 一民話と伝説・地名のおこり，302pp.，川瀬書店，宝塚.
- 15) 阪上太三（1996）伊丹台地の史話と昔ばなし，257pp.，あさひ高速印刷出版部，大阪.
- 16) 西宮市郷土資料館編（1990）西宮ふるさと民話，226pp.，西宮市教育委員会，西宮.
- 17) 西宮市郷土資料館編（1985）西宮の歴史と文化，227pp.，西宮市教育委員会，西宮.
- 18) こども環境活動支援協会（2004）西宮の川を学ぶ，117pp. .
- 19) 西宮市環境保全課（2002）語り部ノートにしのみや，111pp. .
- 20) 武庫川漁業協同組合弓場上博 武庫川渓谷名所図口伝 不詳.
- 21) 尼崎市立地域研究資料館編（1996）尼崎地域史事典，496pp.，尼崎市.
- 22) 兵庫県土木地質図編纂委員会監修（2003）兵庫の地質図解説書（地質編），361pp.，兵庫県まちづくり技術センター.
- 23) 宝塚市・櫻守の会（2009）櫻の園「亦楽山荘」櫻守の会，宝塚.
- 24) 笹部新太郎（1991）櫻男行状，462pp.，双流社，東京.
- 25) 水上 勉（1976）櫻守，269pp.，新潮社，東京.
- 26) 兵庫県県土整備部（2001）さくら周遊ルートマップ（阪神地域）.

写真：エコグループ・武庫川